

京丹波町公共事業再評価審査委員会

第4回会議（会議概要）

日 時 平成20年7月7日（月）
午前9時～11時40分
場 所 京丹波町役場議場
出席委員 9人（欠席 なし）

1 開 会

- ・上田副町長挨拶
- ・村上委員長挨拶

2 議 事

- (1) 京丹波町水道事業経営シミュレーションについて
(担当課から配布資料に基づき説明)

(主な意見・質問等)

・委員

平成29年度から、上水道への移行に伴い、減価償却費が計上されているとのことであるが、どの程度の金額となるのか？

・担当課

平成29年度で約1億8千5百万円、平成30年度で約1億8千6百万円を計上している。

・委員

今回のシミュレーションでは示されていないが、平成30年度以降に水道基金が底をつくという事態は想定されないか？

・担当課

平成30年度以降については資料を作成していないため、明確な回答はできないが、

- ・料金収入の伸びが見込まれること
- ・建設費用がなくなること
- ・利子等の償還金について、返還額のピークが過ぎること

などから、厳しい状況に変わりはないものの、一定、回復が見込まれる要素もあると考えている。

- ・委員

参考までに、丹波瑞穂と和知簡易水道の水道料金を教えてほしい。

- ・担当課

一般家庭で使われている、口径が 13 ミリの水道で、1 月当たりの料金を比較した場合、丹波瑞穂が使用水量 10 立方メートルまでの場合で 2,670 円であるのに対して、和知簡易水道は使用水量 8 立方メートルまでの場合で 1,470 円となる。

- ・委員

「資本的収支」の中に「工事負担金」という項目があるが、これはどのようなものか？

- ・担当課

水道以外の工事（下水道工事、土木工事等）に伴う水道管移設工事などの移転補償物件については、移設工事に係る経費を原因者となる他会計から納付いただいている。

このような下水関連の移設工事を和知簡易水道の統合事業の中で行なったことから、工事負担金として計上している。

（2）統合簡易水道整備事業に係る再評価審査のまとめ

（事務局から提示した「再評価チェックリスト」及び「意見書」の案について、委員会から修正の指示を受けた。）

（委員会を総括した意見等）

- ・委員

地図で見ると、土師川水系よりも由良川水系の水源地の水量が厳しい状況にあることがわかったが、そういったことを広く皆さんに知ってもらう必要があるように感じた。

- ・委員

一日も早く、事業が進捗することを念願している。

- ・委員

この委員会で回を重ね、積み上げてきた内容が資料（再評価チェックリスト）に明記されており、特に意見はない。

・委員

現地を調査して水源地の現状も知ったが、委員会に提出された資料は、綿密に検討された内容であると感じた。

・委員

現地調査も行い、様々な資料も出していただいたが、開発団地における水需要については、今まで未給水であった団地のみが対象となっており、また企業要望における水需要についても、町内の既存事業所を対象としている。

今後の開発団地や企業誘致のほか、既存水源の切替などを考慮すれば、水は余っているのではなく、将来的には、むしろ、不足することも考えられる。

無駄な事業をしているという反対意見も伺っているが、議会も含め、町は、町民に水道の現状を理解してもらうための努力を惜しまないでほしい。

・委員

水道は、命に関わるものであり、ライフラインであるということを、もっと訴えていく必要がある。また、水質の確保も大切な観点であり、再評価委員会に限らず、日常的に訴えていただきたい。

・委員

水源の問題もあり、可能な限り、安心して水が確保できるよう、努めていただきたい。

・委員

自分自身にとっても、水道に対する良い勉強の機会となった。

水は文化のバロメーターとも言われているが、町の現状は、それが隘路となつて、人口や企業が増えないという事態に陥っている。

これで終わりではなく、これからも水道の大切さを町民に理解していただく努力を怠ってはならないと思う。

3 閉 会

・ 畠中副委員長挨拶